

## 日向灘で見られる謎の超低周波群発地震活動

## Mysterious low-frequency earthquakes occurred in Hyuga-nada region

# 山中 佳子 [1]

# Yoshiko Yamanaka[1]

[1] 名大・環境

[1] Environmental Studies, Nagoya Univ.

これまで超低周波地震と呼ばれる現象が十勝沖，紀伊半島沖から四国，九州，南西諸島にかけての海溝付近の領域で起こっていることが石原らや Obara et al. (2005), Ito et al. (2007) によって指摘されている．これらの地震はかなり限られた場所で発生しているように見える．またこれらの多くは巨大地震の余震の中に見られる．しかし日向灘で起こる超低周波地震活動はこれらとは性格を異にするように見える．

そこでこれらの地震の活動について，2000年から現在までの F-net で取られた広帯域地震計記録に周期 0.02Hz から 0.05Hz のバンドパスフィルターをかけて調べた．

その結果以下のような特徴が見られた．

- 1．比較的定常的に起こっている
- 2．数時間から数日継続することが多い
- 3．2002年と2007年に群発化した．
- 4．短周期成分も含む
- 5．巨大地震後に活発化する．

これらのことからなんらかの流体が関与した群発地震現象が種子島沖の海溝付近で起こっていると考えられる．